

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回 本荘地域協議会
開 催 日 時	平成21年11月10日(火) 午後2時00分～4時10分
開 催 場 所	本荘由利広域行政センター「学習ホール」(3階)
出 席 者 氏 名	「出席者名簿(網掛け)」のとおり
欠 席 者 氏 名	「出席者名簿」のとおり
会 議 次 第 1. 開 会 2. 会長挨拶 3. 事務連絡 4. 報 告 ・由利本荘市定住自立圏形成方針の策定について 5. 協 議 ・地域づくり推進事業について 6. そ の 他 7. 閉 会	
会 議 の 経 過	別紙のとおり

本莊地域協議会委員名簿

※出席者：網掛け

役職	氏 名
会 長	村 岡 兼 幸
副会長	本 間 達 雄
副会長	東海林 京 子
委 員	山 岸 鐵 二
委 員	渡 辺 義 弘
委 員	関 口 隆 史
委 員	齋 藤 久 一
委 員	今 野 勘一郎
委 員	斉 藤 良 明
委 員	小 松 賞
委 員	今 野 忠 志
委 員	初 瀬 東 一
委 員	佐々木 豊
委 員	磯 貝 道 子
委 員	遠 藤 誠 助

役職	氏 名
委 員	吉 田 朋 子
委 員	小 林 祥 子
委 員	横 田 剛
委 員	中 村 スメ子
委 員	榎 本 義 孝
委 員	小 川 征 雄
委 員	今 野 忠 男
委 員	岡 田 邦 雄
委 員	佐 藤 はつ子
委 員	大 嶋 順 子
委 員	吉 川 充 子
委 員	菅 原 真 理
委 員	高 橋 徳 之
委 員	小 松 萬 毅

平成21年度 第2回本荘地域協議会 行政出席者名簿

由利本荘市（3名）

No	職 名	氏 名	摘 要
1	理 事	猿 田 正 好	
2	企画調整部 部 長	小 松 慶 悦	
3	企画調整部 次 長	鈴 木 良 信	

事 務 局（4名）

No	職 名	氏 名	摘 要
1	企画調整部企画調整課 課 長	大 庭 司	
2	企画調整部企画調整課 参事兼地域づくり推進室長	袴 田 範 之	
3	企画調整部企画調整課 地域づくり推進室主査	高 橋 和 幸	
4	企画調整部企画調整課 地域づくり推進室主査	山 住 賢 一	

会議の経過

第2回 本荘地域協議会

平成21年11月10日（火）

午後2時00分 開会

4時10分 閉会

1. 開 会 （進行：袴田参事）

2. 会長挨拶

●村岡会長

みなさんこんにちは。大変お忙しい時にも係わらず、平成21年度本荘地域自治区第2回地域協議会に参加いただき、大変ありがとうございます。また、私は第1回目の再スタートの地域協議会を欠席いたしました。欠席して重要な会議に出ていないにも拘わらず、いろいろな経緯があって地域協議会の会長を引き受けることになりました。大変若輩で経験不足ではありますが、大変大事な地域協議会の会長としての任務を努めて参りたいと思いますのでどうぞよろしくお願いしたいと思います。前回出ておりませんので、自分なりの考えを少し述べながら今日の会議に臨みたいと思っております。私自身はこの由利本荘市に合併する前に、約2年半、3年近く合併協議会の委員を務めておりました。合併協議会というのは、1市7町の8つの市と町が一つになるということで、各町から5人ずつ、本荘市の人口が約半分いるんですが、すべて公平平等にということで、5人×8つの市町＝40人が委員の構成でありました。その内3人は、各市町の首長と議員の方々が出席しておりました。民間委員と致しましては、各町から2人ずつであります。その2人ずつが8地域ですから、16人しか民間委員はいないわけですが、それぞれの民間委員はおそらく合併後各町の地域協議会の委員、或いは会長・副会長として入られたとして承知しております。私も副会長として4年間、地域協議会の副会長職をさせていただきました。その中で4年を経て、細谷前協議会会長は行政経験もあって大変豊富な知識の中で、地域協議会の会長をやられておりましたので、副会長としてただ従うだけでしたので、本当に会長という重要な役職をやるに当たっては、少し遠慮するところもあったんですけども、合併協議会の一人の委員として加わってきた経緯、そしてそれが地域協議会というものが必要であると訴えて、その副会長を4年間やった経緯も踏まえて、今回お話しがありましたので、大変重荷ではありますが協議会の会長を引き受けた次第であります。この地域協議会の役割としては、私なりの思いですけども、3つ位大きくあるのではないかなと思っております。一つは合併して約1,200km²という秋田県の面積の十分の一を占める、全国でも十数番目位に広い面積の市であります。人口でも9万人足らずであります。そういう広い面積を持った一つの市として、従来からある8つの地域の地域性は、なかなか10年・20年で無くなるものではなくて、それぞれの8つの地域の特性や個性を生かしながら、また、一体性をどう保って行くかという、合併した市の非常に難しい問題を含んでいる、その中での本荘地域協議会だと思っておりますので、合併したことによって役所が非常に遠くなってしまったとか、市民の意見が通りにくくなったとか、そういう事ではないために、地域自治区を設け地域協議会を作ったということでありますので、一つめの役割としては、大きく合併して広域の街にはなりませんが、市民の声が届く様な役割をこの地域協議会の中で果たしていくということ

が一つめとしてあると思います。そして二つめは、色々な市政や政策に関して、出来るだけ広く市民の声を求める機能が必要だと思うのですが、なかなか全員から聞いて、全員の意見を反映させてということは非常に難しいと思いますので、今回の29人はそれぞれの町内連絡協議会の会長とかそれぞれの団体の立場の代表の方で構成されていますので、そういう市政全般にわたる政策とか、市政に関する意見をしっかりこの地域協議会で述べていく役割も一方では踏まえていると理解しております。そして三つ目が非常に難しく、私もこれまでの4年間その分野を担当する分科会の副会長でありましたが、大変難しく問題提起で終わりました。合併したことによって行政が遠くなるということではなくて、行政に全てをお任せするのではなくて、地域自治とか住民自治ということで、行政と住民が協働しながら様々な公共的な事をやっていく時代になってきていると思います。これを具体的に実施していくこと、或いはシステムとして確立していくことは、非常に難しいと感じております。4年間やって考え方は副会長としては伝えてきましたが、現実にはまだほとんど進んでいないのが現状だと思いますので、この三つ目の住民自治をどう育てて、或いは進めていくか、或いはシステム化していくかという当たりの役割もこの地域協議会には重要な役割としてあるというふうに思っております。そういう意味で、今日は協議事項にもありますが、地域づくり推進事業ということで、新たな地域協議会のスタートに当たって、こういう事を由利本荘市の地域協議会でも進めて行こうという一つの提案がなされます。これまでの4年間の地域協議会を踏まえてだと思いますけれども、そういう意味で三つ目の役割についても皆様方からのご意見を頂きながら進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたしまして、少しまとまりませぬけれども考え方をお伝えしながら、会長の挨拶にかえさせて頂きたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

3. 事務連絡

●事務局（企画調整課 大庭課長）

本荘地域協議会の委員であった「若林徹」氏が辞職され、代わりに、11月1日付けで「東部地区連絡協議会副会長 渡辺義弘」氏が委嘱された事を報告。

4. 報告

・由利本荘市定住自立圏形成方針の策定について

●事務局（企画調整課 袴田参事）

配布資料（由利本荘市定住自立圏形成方針の策定について）により説明

●議長

前回も一度ご提示があつて今回また形成方針の策定についてということで説明がありましたが、何かご意見・ご質問がありますか？

私自信大変理解が薄くて、私からご質問させて頂きたいのですが、これはあくまでも方針の策定についてなので、ここに書いている通りだと思いますけれども、圏域共生ビジョンの原案作成にこれから取りかかると、そして原案作成後に民間や地域の関係者で構成する圏域共生ビジョン懇談会、ということはまだできてないんですね。これからそういうものを作って、そういう検討を重ねて行くと、そう言う理解でよろしいですか。それがそういうふうに進んでいって、それと地域協議会との関わりはどうなりますか？

●事務局（企画調整課 袴田参事）

原案がまとまったものを、時期的には4回目の地域協議会のあたりに、そこでもう一度共生ビジョンについて、委員の皆さんにご説明させていただいて、ご意見を頂いたものを組み込めるものは組み込んで、年度内に策定をしたいと考えております。

●議長

ありがとうございました。今日は第2回ですので、今年度はこの地域協議会を4回位、何かあれば5回位を想定しておりますので、4回目位にできあがってきたものに対して、この地域協議会の中で意見を求めるという事で進めて行くということでもあります。これは経過報告的要素がありますのでこれでよろしいですか。特になければ次の協議事項の方に入りたいと思います。それでは5番の協議事項である、今日を中心テーマであります、「地域づくり推進事業について」ということで、まずは考え方、考え方の次に進め方、だいたいどういうスケジュールで今年度進めていくのか、そして次の年度に係わる話しだと理解しておりますので、その辺のスケジュール的なものの説明を頂いて、それを受けて質疑応答をして理解を深めて行きたいと思っていますので、まずは地域づくり推進事業についての考え方をお話しをしていただきたいと思います。

5. 協議

・地域づくり推進事業について

●協議案件説明者（企画調整課 地域づくり推進室 高橋主査）

配布資料（地域づくり推進事業の説明資料）に基づき説明

●協議案件説明者（企画調整課 大庭課長）

今、高橋の方から説明いたしました、この事業についてちょっと分かりづらいところがあると思いますので、補足説明させていただきます。地域における良い事業、例えばイベントとか、若者の活動がありますが、そこになかなか予算がないという悩みがあるようです。市の財政も厳しい中にありますので、地域の力で、自らが地域を作っていくという考え方ができないのかなと思いをしたところでもあります。その一つの案として、この地域協議会で良いイベント・催し物等について、この地域協議会で決定して支援していきましょう、という意味であります。その額が300万円であります。では、どんな事業かと言いますと、資料3を見ていただきますと、1年間の本荘地域での事業なのですが、例えば、「子吉川花いっぱい活動」というものがあるわけですが、これは子吉川の友水公園等の所に、春先に花を植えている事業ですが、国土交通省の方から環境整備費ということで花の苗を頂いていたのですが、この頃は花の苗ももらえなくなったようです。そういうところに、花の苗代として10万円位を支援するので活動していただきたい。というところをこの地域協議会で決めていただく事業です。また、この資料の中の「つつじまつり」ですが、前は各団体が集まって出店を出していたのですが、支援できなくなったという事で、寂しくなったので、少し元気づけてやりたいなという時に、前まで行っていた「魚のつかみ取り」を復活させ、子供達のはしゃいだ姿が見たいという時に、そこに10万円位を支援しますので、やってもらえませんか、というようなことをこの地域協議会で決めていただきたい。ということの意味であります。それでは何をしたら地域の活性化になるかについては、委員の皆さんが普段各地域において見られているような活動を、あの活動を少し元気づけてやりたいなというようなものを、提案していただきたいという事でもあります。この表でいきますと一番上の（ア）になります。今年は時間の関

係で11月になってしまいました。来年からは10月末までにこれをやりたいと思っております。今年は財政課と協議しまして、12月いっぱい決めることとしました。大まかな事についてご説明しましたが、細かな事についてはご質問いただきたいと思います。よろしくお願いします。

●議長

ありがとうございます。今大庭さんの方からも説明がありましたので、少し理解も深まったかと思いますが、資料の冒頭の1ページ目に書いている、前年度10月末というのは、もうすでに11月ですので、これは普通の年の10月末の想定ですので、今年に限ってはスタートがもう遅いので、スケジュール的なもののお話をいただいて、ちょっと急ぎますけれども、約一ヶ月位で掘り起こしとか、或いはすでにこんな良い事業があるよということで、各地域でのイベントで、これだったら助成してもいいんじゃないかとか、そういうのがあれば、それを約一ヶ月位かけてこの書式に則った形で提案をいただいて、それを第3回地域協議会の中で出し合って、意見交換をしながら進めていく。という形の中で2ページ目の表を見ていただければ良いかと思えます。今（ア）の所から各委員・担当が事業計画提案という（イ）のところまで、12月10日頃の約一ヶ月位を目途に提出していただき、それを受けて12月の中旬過ぎに第3回目の地域協議会、（エ）の部分で進めていくというふうなご理解をいただければと思います。対象外とされる経費は、自然と理解できるというか、常識に考えて分かるものは除外した中で進めていこうというところで見えていただければと思います。例として大仙市では、合併してすぐ各地域協議会毎に500万円の予算を付けて、それぞれ地域協議会の中の事業に、助成というのか支援をしようと、すでに進められていると聞いております。先程私が冒頭で挨拶した部分の3番目の地域自治或いは住民自治を育てる部分の中の、さらにその前の段階で大事な住民活動とか、ボランティア活動とか、そういうまちづくり活動を活発にすることが、ひいては地域自治とか住民自治の方の、役所との協働作業みたいなものにつながって行く話しだと思えますので、それをただ言葉でいうことだけではなくて、やはり物事を行うときにはどうしてもお金は非常に重要でしょうし、但しお金の部分の予算にも限りがありますので、今回の場合の提案は300万円を上限としてということです。少し理解を深めるために、役所と事前打ち合わせをした段階の中で、イメージを膨らませるためには、本荘は先程、由利本荘市は1市7つの地域の個性が何十年も続くと話しましたが、この本荘に至ってもやはり街部と6つの旧村というのは、ずっと何十年経ってもそういう意識というのは残っていると思えますので、ある意味大切な事であると思えますので、バランスだけを重視するわけではありませんが、是非この本荘の地域全体で幾つかの事業に応援できたらという思いもありますので、300万円でありますけれども、一つの事業に50万円とか、100万円とかというイメージではなくて、だいたいですが感覚的に10万円から20万、25万とか、種類によって違うと思いますが、10数件から多くても20件位かなというイメージです。必ずしも決め掛かっているわけではありませんが、イメージを膨らませるためには、本荘の街部と6つの旧村の7つのエリアから10数位の事業が上がってきて、それに20万円前後の助成ができれば、だいたい300万円位になって、それぞれの地域活動支援することにつながって行くという観点で、それぞれの各委員が考えて頂いたら、或いは場合によっては地域に帰って各町内連絡協議会の中で話題にさせていただいて、本当に時間がなくて恐縮ですが、本来であれば年末年始を挟んだ方が色んな話しができるのかもしれませんが、時間的な制約もありますので、一応一ヶ月を目途くらいに、そういう話題を出していただいて、掘り起こし或いは提案をしていただきたいと思いますというのが趣旨であります。私はたまたま偶然ではありますが、まちづくり市民財団

という全国組織の、こういう応援をする助成財団の理事長を8年間努めました。年間600万円を全国各地のこういう地域の運動に助成をするということで、年間600万円でだいたい同じくらいの金額20万円から30万円で、年間20件位を全国各県の地域バランスを考えながら、助成をしてきました。その20万円、30万円というのは、総予算はだいたいその倍とか3倍位です。100万円位の総事業費の中に20万円とか30万円の審査をした上で助成をするということになります。全部このお金だけで行うのではなくて、事業の趣旨とか運営を見ながら、初動資金として取りかかりのお金があることは、何か活動する時に非常に重要な要素になりますので、それで全部を賄いきれるものではなくて、総事業費をにらみながら初動の資金として助成事業をやり審査員を8年間勤めてきた経験があります。また、それとは今回違いますけれども事務局サイドでもまだ確定はしていないので、総事業費に対して何パーセント助成するか、そこまで突っ込んでいませんので、ただいづれ、総事業費を出してそれに対してどれぐらいの助成ができるのかというバランスも見合わせながら、今回この地域づくり推進事業を初年度として、実施するのは来年度になりますが、準備期間として現段階にあるとご理解いただけたらと思います。一方的に私の感じてる事も踏まえながら説明させていただきました。なんでも結構ですのでご意見、ご質問をいただければと思います。

●協議案件説明者（企画調整課 大庭課長）

もう少し付け加えさせていただきますが、決まり事ではありませんが、先程会長さんがおっしゃっただいたいの平均的な考え方からいえば、まず300万円ですので、本荘地域に4ブロック、子吉、小友、石沢、南内越、北内越、松ヶ崎の6つの地域と併せると10地区あり、仮にですが10地区に別けるとすれば、それぞれの地区が目途として30万円位になります。例えば松ヶ崎で、町内だけはダメですが、松ヶ崎全体の地域の資しているような、元気がでるようなイベントで、現に行っていて、資金が足りないとか、こういうところをグレードアップしたいことが、2つ位あれば、7万+7万とか、10万+5万とかかなのかなという位の気持ちでおりますので、そういう位の頭の中に置いて提案をしていただきたいと思います。その提案を事務局の方へ提出していただき、事務局で一覧にまとめ、そして皆さんにお示しをする予定です。それが表の（エ）となります。これはあくまでも均した場合の話ですので、もちろん額についてはこの地域協議会で決めることであります。

●議長

ありがとうございます。今のでだいたいのニュアンス、イメージがつかめたかと思しますので、その上で何かご意見・ご質問は無いでしょうか？

●A委員

ある程度の金額がまとまらなければ行事もできないので、今大庭さんが言ったような形の中で、最低でも30万円位の形の中での事業計画を立てなければ、資料3の事業は39事業もあるので、全部に助成すると10万円はいかなくなる形になるので、最低でも30万円位の事業予算がなければできないと思いますので、そういう形でやってもらった方が、助成される方もやりやすいと思います。

●狼田理事

各地域協議会の2回目の協議会に出席してきておりますが、本荘地域協議会が6箇所目になります。各地域協議会でどういう事を申し上げて来ていたかといいますと、今まで話ししてきたイメージと少し違う所は、既存事業のグレードアッ

プももちろん良いんですが、各地域においてはできるだけ斬新なアイデアを、1つ・2つ位入れて欲しいよというお願いをしてきました。地域協議会にお願いしているということは、そういう意味合いを込めての話でありまして、既存の団体や実行委員会というところにボーンと下ろすのであれば、地域協議会を経ることはなくて、手上げ方式でやった方がそれは楽は楽なんですね。それを経ないで地域協議会でということの意味合いというのは、この地域にあっては合併以来いろんな問題があるだろうし、いろんな声が聞こえて来るだろうし、それをなんとか元気付けるためには、こういったことも良いんじゃないか、こういったことも良いんじゃないか、とういことを、実は大変失礼ない方ではありますけれども、地域協議会の委員の皆様方に知恵を絞っていただきたいと、もっと別な言い方をしますと、期間がなくて大変失礼なんですけれども、宿題をお預けさせていただきたいということな訳です。この資料に39の事業があるから、この事業をベースにしてという基本的な考えではなくて、それぞれの地域にあるいろんな声を吸い上げていただいて自分の言葉として提案を出していただくような、ご難儀をなんとかよろしくお願いしたい。とこういうことをお願いしてきました。ですから、厳しい言い方かもしれませんが、それを1つでも2つでも反映して、これが単年度で実を結んで結果を得ようなどとは、もうどう思ってもいませんし、無いと思いますので、2年、3年を継続を前提でも良いかと思います。議会の予算の関係もありますので、安易に申し上げることもできませんけれども、必ず継続的な予算も必要になることもあると思いますので、そういったことも念頭におきつつ、いろんな事を幅広く考えていただきたいということを申し上げました。

●議長

ありがとうございました。この一覧表をみると、既存の事業に対してということとは全く無いので、あくまで参考資料ですので、この中でももちろん逆に少し工夫して新たな創出をしながらやるということでも良いでしょうし、先程何度も出て来ている掘り起こしというのか、ここにこういう観点を付け加えたこういう事業として、合併後の中で良い事業展開になって行くのではないかとということで、もう委員の方々、或いは相談された方々が中心となって提案されても良いでしょうし、少し自由な発想が必要なのかなとは思いますが、但し、あんまり数が多くて、一つの事業が5万円・10万円ではなかなか事業の初動資金としては少ないと思いますので、そこら辺のバランスが必要かと思っておりますので、そういう意味でいくと、300万円だとすれば最低10件位、多くても15件とか、十数件位かなという感じはします。私としては、この中に提案して該当するかどうか分かりませんが、今区画整理が大分進んでますが、一番館の問題は解決してないです。以前の地域協議会からも実は言っておりました。あれは、「今回の区画整理を期に何らかの形で整備する方針ですか？」と言うことに対して、当時の市役所の方は、「あれはそういうことを想定しながら当然考えています。」というお答えはあったんですけども、現実進んでいないと、例えばこういう緊急のテーマを民間サイドの地域協議会の一つの意見として、これはお金は殆ど掛からないと思いますけれども、そういう区画整理が進んだ本荘の未来を考える小委員会みたいなものを民間側で作って、こんな方式が考えられるのではないかとすることを提案することも一つのまちづくりだと思っています。

質問・意見なんでも良いのですが、ご意見ありませんか？

●B委員

この間大仙市に行きまして、池田邸を見てきました。あそは、入るために2000円の入場料があって、2日間限定で人を集めていたんですね。それがもの凄い

人が集まっていて、そこで本荘地域に足りないものが、私いつも思うのですが、見る物があって、そこで食べる物があって、そしてそこで何か体験できる三要素がいつも本荘地域には足りないなと思い、色んなイベントを見に行くたびに思うんです。だから、さくらまつりの件でも、今回イベントを私は見なかったのですが、いろんな方から、何か全然分からない人達がきて、あまり面白くなかったなあ、ということだった様です。青森県のお話しですが、ボロというか野良着を集めて、それを東京で展示して、すごい人が集まり、青森県ではそれが非常にいやな物というか見せたくない物であったけれども、非常に貴重なものというか、だから本荘市でも何かすばらしい物があるのではないかなと思います。もう一つは、全然関係ないかもしれないけれども、駅前が非常に静かになって、元気がなくなったというお話しがいっぱい出て来ております。矢島に行くと名物おばさんがいて非常に活気づいているんですね。本荘駅に何か基点をおいて、そこから発展していくような方向があれば良いと思っています。そういうふうなことを思いました。

●議長

ありがとうございます。他にご意見いただきたいのは、特に大庭さんの説明がありましたけれども、難しいなと思うのは、松ヶ崎全体に資するというと、意見をなかなか絞りにくかったり、そこあたり微妙なところだと思うので、さらにはもっと広い4ブロックの西部とか中央ブロック全体に資する中で一つの提案を絞っているのも非常に難しいとは思いますが、その当たりの意見交換する時間がはたして一ヶ月位で可能かどうか、そういう会合があるのか、或いは会合が無ければ少し何人かと相談して、提案を試みようかと思うのかどうかの当たりのご意見を、是非各ブロックの会長さん当たりの代表から一言ずつでもご意見いただければと思います。

●C委員

私も今初めてこの内容について知ったばかりですから、頭の中にイメージが湧いて来ないんですが、例えば10ブロックに別けた場合の事を前提に話しを進めているのでしょうか。例えば西部ですけれども、西部地区で事業をやって、それに対する助成、しかし参加する範囲は西部地区の住民にかぎって行うような事がこの趣旨にあうのかどうかと、そういったことですね。ですから新規で事業を考えていく場合に、どういう発想で、どういう事をすればよいのか、従来からやっている、例えば研修旅行だとか、グランドゴルフ大会だとかというようなものは、親睦を図ることで進めていますけれども、そういうようなものに対しては、対象外だというような感じがします。となりますと、従来からやってきている事業、そういう発想をもって有益なといいますか、そういうものを考えるという場合に、今急に出してくれと言われましても、ちょっとイメージが湧いてこないところもありますし、それともう一つは、例えば今のような各ブロックの中で検討となりますと、10ブロック代表者会議があります。年1回ありますけれども、これは各ブロックの代表の方、各ブロックから2名ずつの参加がありますけれども、その会議との係わり、その当たりですね、そんな問題が出てこないかなと、そんな事を思っております。

●協議案件説明者（企画調整課 大庭課長）

先程、本荘地域は10ブロックになるのでとお話しをしましたが、あくまでも本荘地域でいえば10ブロックに分かれているのであって、それにこだわっているのでは無いので、特に本荘地域においてはこだわらない方が良いかと思います。例えば子吉では、一つの大きな固まりがありますので、その中でどれくらいの頭

の中に想定できるものだろうと思った時に、だいたいブロック単位くらいかなというくらいのご説明したのでありまして、本荘地区においてはあまりこだわらないで、東部、西部、中央ですか、この3つでは、全体という中で何かこの辺を元気づけるためにやりたいな、とかいうものがあれば、ここを少しグレードアップしたいなというものがあれば、その辺を皆さんの今までのご経験とか日常生活の中で、提案していただければそれでよろしいのではないのかなと思います。石脇については、石脇は一つの大きなまとまりになってしまうかと思いますが、石脇地域全体で、こういうふうなことをやられている人がいるし、それを少し支援してやりたいという声があることから、少しこれを使って大きくやってもらえたらいいとか、そういうふうなイメージでとっていただきたいと思います。

●D委員

中央ブロックにこだわらなくてもいいような話しですが、由利橋の渡り納めの時に、川の南側と北側に、両方のお祭りの時の神楽囃子が出て賑やかでした。そういうことは普段連絡が無いんですよね。話し合う連絡がないから計画を立てるのも難しいかもしれないんです。中央ブロックでは、まずは区画整理を継続していますけれども、道路が広くなって、民家が狭くなったという感じです。人が減りまして、それが一番大きな問題です。八幡神社の祭典も西部ブロックと中央ブロックと両方にまたがりますけれども、中央の方では、2・3年で当番が回って来ますけれども、それが維持できるかどうか非常に難しい問題です。そして元は、上横町の商店街で夏に歩行者天国で騒ぐ企画があったんですよね。今は道路が広くなったのでもう無いだろうと思う訳ですよ。今年も八幡神社の祭典の時に、大町の方が人数が少なくて山車を出せないということで、特別に本荘高校のブラスバンがでやってくれたんです。それと、一番館というのは中はどうなっているんですかね。あれを小劇場にして色々なイベントを組むような事をやれば、人は集まるんですかね。なんとも人に集まってもうことが必要だと思うんですよね。

●議長

大庭さんのいったことを繰り返しますが、10ブロックを想定し、各ブロックから1つずつということはまず無い、ということですね。特に本荘地域はそうですし。ただ少しどっかに余り偏ることなく、いろんなところが幾つかの事業に応援したいということの理解をしていただければと思います。もう少し時間があればゆっくり、議論も重ねながらできるでしょうが、今やっぱり一ヶ月後位までに少し掘り起こしをしようという話しなので、少し無理をいっているのかもしれませんが、そういう意味で、他の事例について何もまねしようということではなくて、例えば大仙ではどのような地域協議会でどういう事業に助成したかというのは、多分調べられれば直ぐ分かると思いますので、参考として、そういうのも参考資料として皆さんにお配りいただければ、参考の事例として見る事ができるかなと思います。

●E委員

石脇には新山公園ありまして、そこに松がいっぱいありましたが、今は松枯れにより松が無くなりっております。その奥の三望苑に行く途中に栗園がありまして、あの栗園は市の方で確か十何年前に植えて市で管理しているんです。私は時々栗拾いに行くんですが、下刈りをする年もあればしない年もあって、病気も付いている木もあれば、誰が入ってもいいようになっているもんですから、折ったりされてすごい乱暴な取り方をしているんです。栗はいっぱい成っているので、ちょうど良いシーズンに風が吹いた次の日に行くといっぱい拾って来るんですが、もう少しあそこを栗園らしく市で管理して、入場料は取るかどうかは分かり

ませんが、いずれきちんと管理するともっとすごい栗園の名所になるんじゃないかなと私は思うのですが、そういうところに20・30万円の助成をして、そのくらいでは無理かもしれませんが、そういうふうな所を再開発とか見直すとか、そういうことをしてもらえればなと思います。それから、資料を見ると神社とか宗教は駄目ということですが、石脇は裸参りがあります。裸参りに絶対必要な物が草鞋なんですね。草鞋が一足結構高い経費がかかって、その草鞋を作る人もなかなか最近はいないということで、なんかそういう伝統を守って行くための小道具ですとか、そういうものを作って頂くような、伝承していくような方を育てていくということも必要なのかなという気がします。そういう伝統を引き継いでいく、伝承するような方を育てていく、大学生でも良いのですが、そういうふうなものにもちょっと手当をしてもらえないかなと思います。

●議長

はい、ありがとうございます。今言われて気づきましたけれども、本当に松が減ってしまって、我々は石脇では無いですけども、新山を見る側ですが、山の風景が変わったように感じますよね。そういう視点も環境整備としての事業として考えられると思います。

●F委員

今日の次第のその他の当たりで話しをしようかなと思っておりましたが、先程、観光を含めたような話しがあったので、全く私も同じような意見を持っておりました。これは今直ぐにどうにかなるかというような考えでなくて、大変長期化にわたって検討しなければならないことでありまして、この年間の行事と合わせて、まるっきり係わっていないわけではないので話しをしてみたいと思っております。といいますのは、秋田県以外と比べても、それから同じ県内と比べても由利本荘市の場合、観光というものがほんとうに少ないなと私は思っております。今鳥海地域では観光の場所が多い方だろうと思います。その点、我が本荘地域は本当に観光するところが少ないと、常日頃そう思っているわけであります。ですからよその方々から本荘でどこか見たいところはあるけれどもどこかありますかと聞かれても、なかなか無いのが実情だと私は思っております。しかし考えて見ますと、全く無いわけではないなと私思っております。今ある観光資源、眠っている観光資源といいますか、これを整理をすればなかなかいい観光地になるのではないかなと思っているところが、まだまだあるように思います。それともう一つは、その様な観光できる、眠っている資源を整理・改良といいますか、しますと立派な観光地に成るのではないかと、但しこれ単独一個だけでは、どうていよそからお客さんは来てもらえないだろうと思います。ですから我が本荘地域に観光を一巡できる、ぐるっと一回りできるような、そういうふうな観光のマップといいますか、それができればなんぼかはいいいのかなと、ただここ一箇所が有るよと言っても、正直言って、あまり大々的な観光が無いために、わざわざそれを見に来るお客さんもないだろうと思います。ですから私は石沢でございますので、地域から何かないかということを含めて、再三石沢峡というところに今も行っております。例えばそこの所一つを見ましても、かつてはかなりそこへ訪れる観光客があったと思います。ですが年々来なくなって今は訪れる方もいない。というような状況ではございます。なぜかといいますと、行った方は分かると思いますが、草がぼうぼうとしておりまして、車でちょっと行けないような場所になりつつございます。ですから整備をして観光バス程度は行ける様にさせていただき、石沢峡の石沢大滝・甘露が丘公園を見ながら、あそこは桜の名所にも折角なっているんですが、それも手入れがあまりされていない状況です。ましてや、石沢峡の滝まではかなり歩いて行かなければなりません。例えば、そういうふうな所を整

備をいたしまして、石沢のそこだけでなく、今度そこを見たら次のルートで別の所に行けるよと、例えば大内方面に行けるよと、そこを見たら次は東由利の方にも行けるよと、というようなルートを作れば本荘地域一つだけでなく、それを結んでぐるっと一回りできるような事を、もうちょっと手を加えて改良・開発できれば、立派な我が由利本荘市の観光が盛んになるのではないかなと思います、これにはかなりのお金が掛かるだろうと思います。ましてや財政が苦しい状況にありますので、今年来年というような話しではなくて、この地域協議会がその様な観光開発の度に、これからずーと検討して行ったらどうかなというような思いがあります。今日その話しをしたいなと思っておりましたが、さっきチラッと話しが出ましたので、私は今ある資源を開発すれば、そしてずーとずーとここだけを見たら終わりではなくて、よそから来たお客さんに、ここを見たら次があるよ、その次もあるよと、今由利本荘市にある観光地をぐるっと一巡できるような事ができれば、まだまだよそから観光客が来るのではないかなと思います。それにはかなりの資金が必要だろうと思います。ですから、今日明日の問題ではなくて、ずーと地域協議会ではこういうことを検討して頂きたいな私は思っていることを言ったわけでございます。よろしくお願いいたします。

●議長

はい、ありがとうございました。今日の議題に多少かかわる話しだと思います。また今後の大きな取り組みとして、いろんな視点をいただいたと思っています。

●G委員

私もこの事業の内容を十分把握しきれてないところがありますが、こういう問題につきましては、私個人としてのアイディアというのはあまりないのですが、あくまでも地元に戻って振興会なりに提案して、また若い人達の団体も有りますので、そういう方々といろいろ協議して、幾つかの斬新なアイディアを出していただきたいなと感じております。私の個人的な意見としては、南内越地区には観光資源としてはありませんが県立大学があります。そこで今までも南内越アドベンチャースクールというのが、いろいろ取り組んで、子供達とミニかまくらづくりとかいろいろやっております。南内越には内越保育園と県立大学があります。県立大学の前の農村公園は非常に良くできてるのですが、今のところあまり利用されておりません。その場所を利用しながら大学・保育園、或いは地域全体の何か行事を考えて行けばいいんじゃないかなとこのようなことを考えております。いずれ、何をしようとしても事業主体、団体、その方々の協力といいますか、そういう組織ができないとなかなか新しい事業に取り組めませんので、最初に地域の方々と協議し、そういう団体、基盤となる事業をやっていくそういう会議的或いはそういう会をどうするかについても、保育園なり或いは県立大学の学生さん方といろいろ話し合ってそして考えて行けば、何か出てくるのではないかなとそういうふうに感じております。

●議長

はい、ありがとうございました。早速事務局の方から、大仙市の事例が出てきました。事業名ですけど助成に対する考え方は一緒だと思いますので、少し参考にして頂ければと思います。

●H委員

北内越は、赤田・内越・内黒瀬の3町内しかありません。その三つで構成しておるわけですが、全体的に非常に活気がないというのが痛感でございます。8月に農業水産課から声がありまして、由利本荘市の地域資源調査ということで、全

国の大学から大学生が31名が来まして、言葉は悪いのですが、限界集落という
ような感じになりつつあるところを活気づけるためということで、そういう調査
がありました。赤田もそれに手を挙げまして、調査していただいたわけですが、
ども、赤田には国際教養大学、立命館大学、国際基督教大学の3つの大学から3
名来まして、24日から2日間かけて赤田の町内を見ていただきました。赤田で
は大学生の目線で、赤田の町内ではどういうことをやっていけば活性化できるか
というようなことを、27日にアクアパルで発表していただいたわけですね。その
時に、今は戸数は108戸ですが、非常に65歳以上の人が140数名、
約35.6%が65歳以上の人となります。このまあいままと約8・9年位に
はたぶん限界集落といわれる50%を超えるんじゃないかなという状態であるた
め見ていただきました。これといったものもないもんですから、赤田のお寺を開
いた閑居様いわく是山大和尚が残した遺跡といいますかそういうものが数々ある
わけです。それを見ていただいて、やっぱり赤田はこういう閑居様をメインに
したイベントをやっていけばいいんじゃないかと。それにはまずガイドさんが必
要でないかと、ガイドを育てることが大切だと。また、赤田には食堂も無いしご
飯も食べるところも無いので、そういうレストラン、農家レストランというな
ものを、空き家を利用してやってみたらどうかと。それから、お寺に関係したお守
りとかそういうものを、赤田の町内で老人の人方に作って頂いて、それを販売し
ていったらいいんじゃないかと。いろいろ提案されました。これかも由利本荘市
の方で2回、3回と同じ調査を提案してやるそうですけれども、そういう時にお
金がかかるので、そういうところにこういう事業を使って頂ければ、予算を頂け
れば、非常にやりやすくなるし、大変いいことではなかなと私は思いました。あ
まり深く今まで考えていなかったものですから、あまりいいことも言えませんけ
れども、そういうことを感じました。

●議長

はい、ありがとうございます。このすでにやられてます、文化とか歴史とか大
学生を生かして限界集落の問題をどう考えるかという取り組みをされているよう
なので、工夫すればイベント或いは、研修事業にできるんじゃないかなと思って
聞かせていただきました。ありがとうございます。

●I委員

松ヶ崎では港祭りというのがあります。ところが港祭りには、地元松ヶ崎の有
志の方々、そして岩城・亀田の方々、それに大内の方々が何人か来て港祭りをや
っているんですが、しかしその対象者が、子供或いは中学生の方が、実際今年私
初めて参加したんですがいなかったんです。加えて漁業関係者だけのお祭りのよ
うにも見えたわけです。よく地域と行政との協働と言われますけれども、やはり
どうしても私達のような地域では地域住民の課題はなんであるかということ、
もうちょっとはっきりさせて行かなければ、協働というその事業まで到達できな
い。そんなことを批判的ではありますがちょっと考えました。幸い12月20日に
松ヶ崎振興会の役員会があります。その役員会には各町内の会長さん方が集まっ
ていただきます。町内は13町内で、上三川というところまでです。鳥海プラ
ントのところですね。あそこまでのところの13町内が集まりますので、こう事業が
あるんですよということで、今一度会長さん方にお話をし、その理解を深めて
協力を得たいというふうに思っております。私が今ちょっと考えて見るには、や
はり私どもの地域では、丁度今の時期に鮭が遡上する次期で、鮭の漁獲がそれな
りにあるわけです。鮭料理ということもあるかもしれないんですが、なに
かそういうもので、直ぐにお客さんを呼ぶとか、次期がもうちょっと早ければ網
引きという体験をしてもらい、網引きがあるときは必ずお魚が捕れますので、魚

を一緒に食べる。そして今年もやったのですが、クリーンアップという海岸一帯の掃除してゴミ拾いを行う。その辺もお互いに取り入れたようなお祭りというか、そういうものをできればやってみたいなと思っているんですが、なにせ今度の20日に行う振興会の役員の方々は、こういう補助がこういうふうにあるんだということがまだ分からないと思うので、この事業についてお話しし、理解してもらわなければならないと、そんな事を感じております。

●議長

はい、ありがとうございました。

●J委員

あまりこの事業の中身を把握しきれていないのですが、ただ自分の感じていることをちょっとお話させていただきたいと思います。私は本荘の赤沼地区に住んでいるんですが、たまたま住宅区域なものでその中にいるわけです。自分には孫が二人いるんですが、ちょっと遊びますと12・3人の孫がいつ頃にぽんと集まってくるんです。こう見ていて、すぐ近くに公園用地がございまして、期待しておるんですが、残念ながらなんか調整が上手く行かなくて草ボウボウの状態なんだす。そういう観点から本荘近辺・近郊いろいろと遊園地というのを見させていただいていますが、非常に草ボウボウで何十年まえからあるようなブランコとか、滑り台とか野ざらしになっている状態の遊具をよく見かけるわけです。よく使われているのは赤沼公園のところにある遊園地なんかは、結構人が集まったりして使っているんですけども、目新しいような遊具関係はほとんど無く、もう少しちいちゃな子供さんから、ある程度の年齢までの方が楽しめるような遊具、こういう物を新たに今の時代にあったような安全で、楽しめるようなものが結構あると思っています。だけれども全然そういう物に目が向けられないで、そのままになっていると思うんです。ですから、この事業には当てはまらないと思うんですけども、こういう今まで遊園地としての土地みたいなそういう場所が結構違いがあると思うんです。そういうものをもう少し皆さん達目で見させていただきながら、地域の方と協力し、ましてや市の方からの応援もいただきながら、是非孫さん達、また子供さん達がそこで元気に遊んでもらえる様な施設の方へ、若干でも力を入れていただければ、本荘地域のこれからの発展につながる小さい子供さん達が元気よく育って行くんじゃないかなということを、最近つくづく感じておりますので、チャンスがありましたら何らかの形で協力していただければありがたいと思っています。

●議長

はい、ありがとうございました。

●K委員

女性部としては、本荘追分の全国大会で、本荘追分おどりを広げて行きたいという意志の元で、女性の方々が全員舞台に上がって踊ったりしています。これを広げて行こうということで頑張っております。これを新しいイベント、掘り起こしということで、是非とも市の方の協力をいただきたいと思いますということで、そういう内容を商工振興課にもお話ししました。現実には本荘追分の全国大会の前日に、盆踊りとかをやって、とにかく本荘追分の唄は全国に知られていますが、踊りは全然知られて無いわけですので、これが西馬音内の盆踊りに匹敵する位までに、是非とも広げたいというのが私共の考えなんです。これを市の方にも少しずつ広げたいということで、踊りの師匠もいますので、その方達も協力してくれるということで、今年で2年目になるんですけども、一生懸命踊りを広げたいと思って

おります。後は本荘のお祭りなんですけれども、せっかく大名行列をやるんですから、これも市の方からバックアップしていただいて、お殿様の衣装だとかを常時展示できる場所、先ほどから一番館の話が出て参りましたけれども、そういう一番館を、鹿角の観光ふるさと館「あんたらあ」みたいな感じで、見る、体験する、そしてお食事もできるというそういうのを利用して活性化できればどうかと、私個人と商工会の女性部としての考えもお話させて頂きました。

●議長

はい、ありがとうございます。本荘追分の踊りを広げようというのは、すごく大事ですよ。たまたまですけれども、この間商工会の会員交流会の時に、大曲の花火の話が出て、私がびっくりしたのは大曲の花火は今全国区の日本一とか世界一とか言われるようになりましたが、それはたかだか20年位前の話で、30年前は、それなりに大きい花火大会であったけれども、観客数は10万人代位でずーと推移して来ていて、20年位前からがーんと上がって今、60万人とか70万人ということで、一挙に付加価値が付いて、それを今度はメインに街づくりをやってるみたいな、非常に参考になるいい話だと思いました。本荘追分の唄とか踊りとかいい物はもっているけれどもまだまだそういう付加価値は、大曲の花火に比べたら少ないと思いますので、それを広げようというイベントに、これは地域限定でなくてなくて、由利本荘市全体に関わるような話ですけれども、そういうのに資するのにもこういう地域協議会の中から上がっていくのも一つ大事ななというふうに思います。どうもありがとうございました。

●L委員

最初にB委員さんがおっしゃいましたように、例えば人がよそから集まって来るようなイベントとか、そういうような事をイメージしていたんですけれども、お話によれば、10地区に均等に、やはり今いわれている格差の無いような助成をして、地域を力づけていくというようなお話になっていると思いますので、私共の方の西部は、西部の会長さんがおりますので、そちらにお任せして、これからちょっと私も考えて見たいと思います。それとは関係なく、旧本荘市ではトイレをあちこちに新設して利用されていると思うんですが、いろいろなところの施設のトイレが古くなってきておりますが、そこは和式が多いわけですが、いろいろたずねて歩いてところでは、うちの方のコミセンや敬老会をしている市民体育館もそうだと思うんですけれども、様式のトイレが無いために、いろんな長時間の行事には参加しにくいという方々が出て来ている様で、協議会とか市でも施設の点検とかをしていただいて、そういうような配慮をしていただければと思っております。全く関係無いことを申し上げました。

●議長

はい、ありがとうございます。でも、そういう市民の声を吸い上げるのも地域協議会の役目の一つなので、今日は地域づくり推進ですけれども、是非そういう場も設けて行きたいと思っておりますし、それから、10地域バランスよくという視点も持ちつつ、猿田理事が言われたように、独走的なというか、新たな事業をこの地域協議会の中で掘り起こしたいとかという部分もこの中には含まれていると思いますので、いろんなところから事業が出てくるのもいいですし、何か一つ特徴的なやつが上がって来るのもいいんだと思いますので、我々も全く初めての試みなので、どういうのが上がって来るのかもよく実は分からないので、まして一ヶ月間という短い縛りがありますので、できるだけ上げて頂いて、少し一覧表にして、次回のまたこの協議会で検討して、行きたいというようなそういう意向ですので、ご理解をお願いしたいと思います。

●M委員

花火大会と同時に菖蒲音頭のイベントがありますけれども、私たち婦人会は、今年は参加しませんでした。北内越では4・5年も前から参加してませんけれども、その理由として、市の方で前は参加していたときは、一回ぐるっと回って踊って来れば、ビールとかジュースとかいろいろなものが飲めてあったのが、それも無くなり、行ってもなんにも楽しみが無いということと、また皆さん仕事をしているため、その仕事が終わって来てからまたこの市内まで来るというのも大変なものですから、だんだん参加する人がいなくなって、北内越の婦人会としては参加しない事にしたんです。また、よその方から呼んでくる踊りとかいろいろなものがあるみたいですが、最近は来たことが無いんですが、あまり多方面からつれて来ないで、本当に本荘でしたら、本荘の人たちだけで、盛り上げるようなものがないでしようかという話もありました。そういうものがあればその人方がやっている間は、菖蒲音頭は休むんですが、休んでしまうとなにか踊る気にならなくなってしまうという話もあって、だんだん参加する人がいなくなって来たというような本荘の婦人会の中での話しでした。ですから、もう少し考えを見直していただきたいというのが婦人会としての思いでございます。

●議長

はい、ありがとうございます。菖蒲音頭の貴重なご意見、私も少し関わっている一人として、十数年前はむしろ単純さを求めてやってたので、よく今の意見は分かるというか、聞かせて頂きましたので、しかるべきところにご意見としてお伝えしたいと思います。

●N委員

今財政難の中で、こういった予算措置ができるというこはすばらしいなと思ってまずは感じました。私は芸術文化の立場から申しますと、今伝統芸能を継承するという課題がありますけれども、各地で例えば神楽とか、そういった伝統芸能を継承する後継者不足の問題とか、経費がかかるととか、いろんな問題でなかなか進まないという問題がありますので、そういったものに一つこういった予算を使っていただけたらと思いました。やはり、各地域で予算あるから何かやらないかという発想よりも、今必要なものは何かというものをとらえて、そういう事業に一つ予算を使っていただきたいなと思います。それから、やっぱりこれから観光化だろうと思います。人口減・少子高齢化どんどん人口が減ってる段階で、やっぱり観光で外貨を稼いでいかなければ大変な時代になって来ておりますので、そういった中で私共は先ほど本荘追分の話も出ましたが、私も本荘追分を担当しているものですから、女性部の皆さんからの自発的な発想で、一昨年から本荘追分の踊りを一生懸命頑張っているんですけども、そういった市民からの自発的な発想というのは大事だなと思っております。行政側もそういったものを是非後押ししてほしいと思っております。それから、観光地というのは確かにあまり無いわけですけども、観光客が来ても案内人がいないというのが現状です。お隣のかほ市なんかは、私も行って見たのですが、獅子ヶ鼻湿原とかは観光地帯で私共も案内してもらいました。非常に今脚光を浴びているんですけども、そういった受け入れ体制も大事ななと思っております。それからもう一つは、ふるさと観光大使というものを以前から私は提唱しているんですが、なかなか実現できていない状態にあります。例えば本荘出身の著名人やいは歌手・画家・経済人、そういった人たちが結構いるんですよ。他の地区ではそういった方に観光大使を委嘱して、それで地域を盛り上げているという例もたくさんございます。どうして本荘にできないのかなと思っているわけですけども、いい機会ですから、私

はこの協議会にそういったものを提案したいと思っておりますので、一つご検討してください。

●議長

はい、貴重なご意見ありがとうございました。予算があるので既存の事業に付けようというのではなくて、今由利本荘にとって何が必要か、これがあれば何かインパクトが与えられるのではないかとということに、こういう貴重なお金を使って行こうではないかということで、貴重なご意見だというふうに思います。また、それについても是非今回の地域づくり推進事業に盛り込めれば大変いいことだと思いました。

●〇委員

平成20年度の年間行事の一覧表を見まして、雛街道なんかは、私は家族で乗用車で行きましたけれども、これを見ますとバスツアーとかそういうのがだんだん大きくなって来ているなということを見まして、とっても喜ばしい事だと思っています。それと、5月31日の佐藤宗幸コンサートがアクアパルで開かれた様ですけれども、こういうふうな有名な方をお呼びするということも、また大切なことではないかと思います。私はF・F推進員をやっているのですが、大仙で「女房が宇宙を飛んだ」と題して、向井千秋さんの夫が講演をする案内をいただいておりますけれども、我が由利本荘市も男女共同参画の都市宣言をしたわけなんです。どういことを検討するかということはまだこれからなんですけれども、まだ男女共同参画という言葉も皆さんに知られていないと思いますので、是非その方の講演を拝聴して、他の人にも広めて行けたらなあと思っております。我が本荘には県立大学がございますので、その講堂もすごく広くって、そこで他の人をお呼びしての講演をおこなうのもいいんじゃないかと思います。単独で行うのではなくて、こういうところでは重複しておりますので、どんどん広めていけばいいなあと、それが委員としての使命かなと思っております。

●議長

はい、ありがとうございました。

●P委員

先程から地域で事業がダブっている話が出てますけれども、地域でやった場合に他の地域からも参加するっていうことが、私は意味があることだと思います。私は参加することによって、他の地域のことも知って、それでまた由利本荘市の全体にもつながって行くというような気がします。それから今までやってきた事業の一覧を見て、ずーと何年も何年も続けてやって来た事業もたくさんあると思いますけれども、同じ事業をやることによって良い結果があって、続けて来てるんだと思いますが、同じ事をするときには内容をその年・その年で、同じことをやるところと、また違うことをまた新しく考えて行くことも必要ではないかなと思いました。先程も出ましたけれども、地域で何が大切で何が必要なのかということを考えながら、どういうことをしていけば良いのかということを考えて行く必要が有るのではないかなと思いました。私は子供達を見ていて、親子で命の大切さを考える会とか、そういうことも必要かなと思っております。

●議長

はい、ありがとうございました。

●Q委員

私は新山公園について意見を述べたいと思っております。今まで合併なる前から、10年も前から公園整備事業ということで、補助をもらって本荘公園は立派になったと思います。その時から話しをしているんですが、今度はだんだん外の公園を整備する予定となっていたけれど、いっこうに手を付けてもらえませんでした。今回私が考えているのは、新山神社の場合は財産区の土地と新山神社の土地があるわけですが、新山神社の土地に対しては、全部さくらが植わっております。ですのでまず大丈夫だろうと思っております。ただ新山小学校から新山神社の公園に上がるまでの間に桜が植わっておりません。できるならばそういうところに桜を植えてもらって、子供さんも喜ぶだろうし、また通学路にもなっておりますので、そういうものを重点的にやってほしいものだなと思っております。聞くところによりますと、今こういう事が有りますように、私たちも新山神社に対しては、一生懸命になって公園を整備しながらやっているんですが、いっこうに合併になる前から整備事業がありながら、大したものをつけてもらっておりませんでした。今回はそういうものを考えながら予算の範囲内で整備して頂きたいと思っております。

●議長

はい、貴重なご意見ありがとうございました。地域づくり推進事業のことだけではなくて、全般に渡る意見も皆さんからも数件頂いて良かったかと思っております。

●R委員

お話を聞いていて私が感じた事は、まずお話しの中に二通りあると思うんです。まず一つは、既存のものをどういうふうにするかということで、例えば文化活動であり、子供の教育関係の事、街並みの事、それから施設の事です。もう一つは、猿田理事が言われたように、新しい発想の基に新しい何かをここに作れないかというそういう考え方のご意見があったようですが、これに関係することが一つありまして、北上市に詩歌資料館というのがあるんです。和歌とか俳句とかを掲示してある所なんです、文化活動の一部ですから、一見くだらないように見えるんですが、これが、そこに全国の人達が投稿したものが提示してあるんです。全国から自分のものが提示してあるかどうか確認しに来るんだそうです。ですから、常に全国からそこに集まって来ている。いわゆる外から人を呼ぶための方法の一つとして、大変これは面白い考え方だと思います。それからもう一つは、最近例えばマンガの何だとか、それから昔そこに縁があった、例えば「竹下夢二」のああいふことなんかも、全国たくさん有るんです。こういうふうなものを引っ張って、いわゆるよそから人を集めようという、そういう考え方をしていところが、最近非常に多い様な感じがします。本荘はどうかなということで、実は私のある知り合いが、本荘に行くのに楽しみが有るというんです。何だと聞いたら、本荘に行って清吉そばやのそばを食べて、それから本荘のパチンコ屋でパチンコをするのが楽しみだというんです。どうしてかというと、清吉そばやのそばは美味しいし、秋田市の人なんですけども、秋田市より本荘の方が良く出るといいます。この二つで楽しんで帰るといこういう話しです。ですから、考え方としては今よそから引っ張るとい話しは、新しい発想のもとでの考え方をしていくことだと思います。それから、他所でやらない新しいものでなければ、同じものを考えてもあまり魅力を感じないと思います。例えば横手の焼きそばは、実は私が間違いでなければ、あれは30年代に新宿西口で売ってたんです。私が学生時代良く食べに行ったんです。同じものなんです。ところが他になかったんですね。あれが今の横手焼きそばの原点だと私思うんです。新しい発想でやったという非常にすばらしい考え方が、こういうふうなものが編み出された形かなというふう

に思います。何かをするか、本荘で魅力の有るものは何か、考えられるものは何か、イベントを起こして何かそういう地域で楽しむ事ができるかとかです。それからもう一つは、食べ物で魅力が有るものはあるか、買うもので何か楽しむものがあるか、こういう幾つかのものだと思います。長野県の小布施町というところに、小布施堂という有名な栗のお菓子屋さんが有るんです。これは小布施町の酒屋さんが栗を利用したお菓子を作って、デパートに店を出したんです。その小布施堂という所に私行って見たんですが、本当に小さい場所なんですけれども、それを中心として人がすごく集まって来るんですね。何だろうと思うと、栗を中心とした食べ物と、それ以外のいろんな食べ物とかのそういうものを並べてあるんです。ただそれらに魅力を感じ集まってくる。そういう仕組みをそこで創っているということで、非常に面白い創り方をしているもんだなというふうに思います。しかれば本荘で何を考えて、何をするかなと思います。私はこれから桜の木々のあれがありました、あれと関連することで、本荘の街を歩いたら楽しい街だという、そういうイメージが広がれば、よそから人がたくさん来てくれるのかなと私自身は感じておるんです。総合的にいろんなものが本荘に行けばあるようなそういうことが必要かなと思います。今由利牛が一生懸命売られています、じゃあ由利牛の買うところは何処にあるかという無いんです。前沢に行きますと前沢牛というのがあります。前沢牛はちゃんと専用に食べる店が有るんです。やはり食べて買って帰るという、そういうことだと思うんです。やはりセットにしてやらないとだめなのかなと感じます。そんなことをいろいろと考えていくと、やはり逆転の発想というわけでは無いのですが、毎年夏になりますと盆踊りがすごくはやります。本荘追分も結構2種類有って楽しくやっています。私冬の盆踊りってできないものなのかなと思っていて、冬の盆踊りってどこも無いんですよ。やはりそういうふうな考え方ができるかできないかは別にして、やはり考えられないようなことをやっていかないと、魅力のあるものになっていかないのかなというふうな感じがしているわけです。感想というか考えというか、そういうことだけで申し訳ありませんが、例えばソーランがはやっていますよね。あれは私がすばらしいと思うのは、実は本当のソーラン節を出したところで、他所のいろんなところでソーランを出すことを認めているんです。これはすごいことだと私は思います。実は秋田の竿灯は、鳥取竿灯というのが鳥取にできたんです。これは自衛隊の人が鳥取に持ち帰って、鳥取竿灯として始めたんです。ところが、秋田の竿灯協会がクレームを付けて辞めさせたんです。辞めさせたために鳥取竿灯がダメになったという話を聞きました。非常に情けない話だと思います。やはり鳥取竿灯は鳥取でやってもとりあえず鳥取の竿灯でしか無いんですよ。本物では無いんです。やっぱり本物見たさに秋田に来ると思うんです。やっぱりそういう発想をしていかないとだめかなと感じておりました。そういう意味では、私は猿田理事の発想になにかついていきたいなという気がしているわけです。

●議長

はい、ありがとうございました。本間さんに全部まとめて頂いた感じでありがとうございます。今お話しがありました様に、既存のイベントとか、文化・伝統芸能を育てるという視点と、もう一つ新しい発想の基になにかを創るという二つの面があると思いますが、既存にそれを付け加えるという発想もあるでしょうし、新しい視点を加えるということもあるでしょうし、なかなか今日の会議だけで全てまとまりませんけれども、随分いろんな意見交換をしましたので、そういう意見交換を踏まえた中で、是非この地域づくり推進事業の各委員からの提案をお待ちをしたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしく願いしたいと思います。最後に、歩いて楽しい街にしたいというのは私も全く賛同で、本荘というのは結構コンパクトな街ですよ。この市役所中心といいますか、歩いて半径

1 km位で街の中心部のほぼ全てが入る位なので、本荘公園はだいぶ整備が進んで来ました。そして子吉川の河川公園も随分ここ十数年整備が進んできて、先程出て来た新山公園が少し遅れ気味かもしれません。そういう意味で新山公園の整備を進めると、3つの大きな公園が一つの面みたいになる。本当の意味での公園都市というか緑豊かな都市みたいな、例えばそういうイメージを打ち出して行くとかということも可能だと思いますので、そういうことも提案して行くのがこの地域協議会の役割だと思いますので、是非これから回を重ねて行きながら進めて行きたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げて、最後の足りない部分というか、この地域づくり推進事業の提案をしてもらうに当たっての、スケジュールとそれから今日の限られた時間の中で、一ヶ月という縛りの中で難しい部分も多々あるかと思いますが、どうしても分からない部分は是非事務局の方に積極的に係わっていただいて、質問を電話とか FAX とかでいただきながら、短い期間ですので是非幾つかの提案が上がってきて、それをふまえて第3回の地域協議会につながるようにしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

●A委員

参考意見ですが、本荘市由利郡の農協も合併して丁度10年が過ぎました。それぞれの農協が秋になると収穫感謝祭を旧11農協でやっていたんです。今年はそれを全部辞めまして、本所に集約して1回にやったんです。盛大な秋祭りになったんです。そういう発想の転換ということで、そういう形もあって良いんじゃないかなと思いますので、それも含めてよろしくお願いします。

●議長

はい、ありがとうございました。それでは事務局お願いします。

6. その他

●協議案件説明者（企画調整課 高橋主査）

そうすれば、今後のスケジュールについてですが、12月10日までに提案書を企画調整課まで提出いただき、それを踏まえまして12月25日の午後2時から、ここ行政センター「学習ホール」で、第3回目の地域協議会を開催し、各委員から提案していただいたものについての協議をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。この提案書ですが、各団体、各ブロックの代表さんについては、いろんな方々にご意見を伺いながら提案していただければと思います。決して一人一事業を考えて出してくださいということではありませんので、期間が短くてお話しができるかどうか分かりませんが、皆さんと相談していただき、本荘地域の活性化につながるようなイベント等を考えていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

●議長

確認をいたしますが、各委員からの提案という形でよろしいですね。各委員からの提案を市の事務局に出すという形で、12月10日まで。事業内容については、まだ事業費が確定していないとか、仮の事業名なのかもしれませんが、そこら辺は相談していただいて、完璧でなくてもある程度やり繰りの中で提案をしていただければ、というニュアンスでよろしいですか？

●事務局（企画調整課 大庭課長）

だいたいこういうイメージがあるがどうなるか分からないという当たりについては、電話等をいただいてやりとりしながら組み立てて行くことは可能ですので、各委員の方々におかれましては、大変お忙しいと思うんですけども、何かこういうふうな事をやればという提案をしていただきたいと思います。そのことについてご相談があればご遠慮なく課の方に電話等をしていただければ対応いたします。

それに加えて、お手元の方に配布しました男女共同参画宣言都市の講演会ですけれども、12月12日に講演会を致しますので、機会ありましたら委員の皆さんからもPRをよろしくお願いします。このチラシは11月15日号の広報に入りますのでよろしくお願いいたします。

●猿田理事

本日は一所懸命ご審議頂きありがとうございました。いろんな地域に同じような形で、お願いやら、説明やら、意見交換会におじゃましておりますけれども、市長が変わればいろいろやり方が変わってきましたね、ということを率直に言われるようになってきました。それは、今までをどうのこうのということではなくて、会社でも経営者が変われば、会社の経営方針というのがあるわけでありまして、そういった意味で今回素直に申し上げますと、長谷部市長が来年度予算に向けて自分の色を出そうとしている、その初めての取り組みでございますので、その辺の意を十分に汲み取りいただきまして、積極的にご提案をいただきたいと思います。紙が無ければ幾らでもコピーを差し上げますので、5枚でも10枚でもいっぱい出していただければ、その中からいろんな良いアイデアがいっぱい出て来ると思いますのでどうぞよろしくお願いします。この提案用紙には具体的に事業費がいくらいくらで、内訳がどうのこうのと書いていますけれども、これには拘らないで、縛りを設けないのがこの事業の特徴でございますので、皆さんの良いアイデアをお待ちしたいと思います。どうもありがとうございました。

7. 閉会